

# 「異国情緒あふれる芸術の街サンタフェ」



サンタフェはアメリカのニューメキシコ州北部に位置する州都です。独特な景観が広がる街並みや多様な文化性が特徴的で、市街には日干しのレンガで作られたアドビと呼ばれる赤茶色の建物が軒を連ねており、歴史的な建造物と共に魅力的な景観を生み出しています。

なかでもアメリカ最古の教会とされる「サンミゲル教会 (San Miguel Mission)」やそのすぐ裏手にある「アメリカ最古の家 (The Oldest House in America)」は決して華美ではないものの素朴な美しさを兼ねそなえた観光スポットで、勿論アドビで作られています。不思議な階段(奇跡のらせん階段)で有名な「ロレットチャペル (Loretto Chapel)」。聖ヨゼフの螺旋階段というのをご存じでしょうか。ロレット教会完成間際に気付いた重大ミス。それは2階に行くための階段がないこと。急遽つけられたこの螺旋階段は支柱も何もなく、バネのように垂れ下がっていること。階段は1枚の板でできており、今でもどのように作られたか謎のままです。完成当初は手すりもなかったのですが、怖いということで後からつけられました。アメリカ最古のマリア像が祀られている「聖フランシス大聖堂 (St Francis Cathedral)」など、宗教的な建物も多数あり、見どころ満載です。



サンタフェは世界中からアーティストが集まる芸術の街としても有名です。人口約63,000人の小さな町ながら、市内にあるギャラリーはなんと200軒以上。なかでも数多くのギャラリーが立ち並ぶ「キャニオンロード (Canyon Road)」は、店構えも個性的なギャラリーばかりで、見て歩くだけでも好奇心がそそられます。砂漠地帯にあるサンタフェの気候は、季節ごとの気温差が激しく、夏は非常に暑く、冬はとて寒いのが特徴です。実際に夏は30℃を超える日も多く、強い日差しにさらされるため、暑さと紫外線対策が必須となります。ただ、サンタフェは暑さを和らげるように建物が配置されているので、暑い夏でも比較的過ごしやすいです。一方で冬は氷点下になる日も多く、12月からは雪が降る日も増えていきます。観光のベストシーズンは9～10月の秋頃。この時期は暑さも和らぐため快適に過ごせるほか、街の東側に位置するサングレ・デ・クリスト山脈 (Sangre de Cristo Mountains) の紅葉も楽しめます。

サンタフェはアメリカ建国よりも前、1607年に創設されたという長い歴史を持つ都市です。アメリカ国内では、フロリダ州セントオーガスチンに次いで古い街と言われており、州都としてはアメリカ最古の歴史を持ちます。もともとこの地には大勢の先住民が暮らしていましたが、そこにスペインからの入植者がやってきて、サンタフェという都市を創設しました。その後、入植者と先住民との抗争を経てメキシコ領となり、現在のアメリカ・ニューメキシコ州の州都に。サンタフェにはインディアン文化をはじめ、スペイン系の文化、メキシコ系の文化など、長い歴史で育まれてきた多様な文化と伝統が街のいたるところで息づいています。それぞれの特徴が今もなお、建造物や色合い、食文化などに色濃く残されているので、街をぶらぶら歩いているだけでその多様性に驚かされるかもしれません。

サンタフェにはアメリカ最古のマリア像をはじめ、北米で初めて聖徒となったとされるネイティブアメリカンの少女カテリ・テクウィサ (Kateri Tekakwitha) や聖フランシスなど、聖人の銅像がたくさんあります。また、市内を散策していると、聖人だけでなくカラスや牛、豚など動物の像も多く建

てられていることに気づくでしょう。これらは聖フランシスが動物愛護の守護聖人であることから造られたもので、市内のいたるところに置かれています。動物の銅像は文化や伝統が融合しているサンタフェらしく、さまざまな様式で形作られているところが特徴的です。街を散策しながら動物の銅像も探してみるのも楽しいかもしれません。

サンタフェではクリスマスシーズンに、ルミナリア (Luminaria) あるいはファロリト (Farolito) と呼ばれる紙でできた素朴なランタンを造り、これを建物の屋根や道沿いに飾る風習があります。アドビ風の建物にニューメキシコ特有の素朴なランタンの組み合わせが絶妙にマッチしていて、より素朴で美しい街並みが作り出されます。クリスマスシーズンはこの風景を目当てにサンタフェへ訪れる方も多いためです。さらに、クリスマスにはキャニオンロードでファロリト・ウォーク (Farolito Walk) と呼ばれるイベントが催され、道沿いに多く点在するギャラリーがクリスマスデコレーションと共にランタンを点灯し、幻想的な夜を演出します。多くの芸術家に移り住み、アートの発信地とされるサンタフェの街には美術館や博物館など、個性豊かな芸術に触れられるスポットもたくさんあります。

例えば、アメリカで有名な女性画家ジョージア・オキーフの作品が展示されている「ジョージア・オキーフ美術館 (Georgia O'Keeffe Museum)」や、貴重なアート作品だけでなく、サンタフェの歴史に関する展示物も多い「ニューメキシコ歴史博物館 (New Mexico Museum of Art)」はサンタフェでは外せない人気の観光スポットです。

ほかにも、「インディアン・アート・アンド・カルチャー博物館 (Museum of Indian Arts and Culture Laboratory of Anthropology)」はネイティブアメリカンのアーティストによる作品が多数展示されているほか、この地に古くから住むインディアンの文化や歴史に触れることができる、サンタフェならではの施設です。

サンタフェのお土産なら、本場ネイティブアメリカンの人々を作る雑貨やアクセサリー、インテリアがおすすめです。街の中心地であるプラザ (Santa Fe Plaza) にはお土産屋さんや雑貨屋さんも多数点在していますが、よりネイティブなアイテムを求めるならプラザ前の露店に足を運んでみましょう。

昔から親しまれている日本の文化、温泉。アメリカでは、ネイティブ・アメリカンの湯治場として使われてきたアーカンソー州ホットスプリングスが有名ですが、アメリカ南部ニューメキシコ州の州都サンタフェで、ひととき異彩を放つ存在が「Ten Thousand Waves (萬波)」。地元の玄関であるサンタフェ空港から、自動車でもニューメキシコ州ルート599 (ハイウェイ) を移動すること、約30分。サンタフェ中心街からハイド・メモリアル州立公園に向かう道中、木々に隠れて、うっかりすると見過ごしてしまいそうな場所に突如として出現します。駐車場からの長い階段を上ると、建物が見えてきます。吹き付けの白い塀に、和瓦まで備え付けられており、見た目は完全に日本の和式建築。入口付近には、日本の仏閣で見かける高い塔婆まであります。



(Japan Tours & Travel, Inc.)